

## 資料

### 薬用植物カギカズラの根ざしの一例

新原修一

森林環境部

要旨：カギカズラ（アカネ科）の根ざしを試みた。鹿児島県始良市に自生する成木から得た根をさし付けて発根状況を調べた。4月ざしと8月ざしで、発根率85–100%、シュートの発生率65–87%を示し、4月ざしでは半年で野外に植え出し可能な苗が得られた。

キーワード：カギカズラ、根ざし、薬用植物

**An experiment of root cutting propagation of *Uncaria rhynchophylla* Miquel (Rubiaceae), a medicinal woody vine.** Shuichi NIIHARA. *Bulletin of the Kagoshima Prefectural Forestry Technology Center* 19:21–23 (2018)

**Abstract:** Root cutting propagation of wild collected materials of *Uncaria rhynchophylla* had been carried out. In April and August trials, cuttings showed high rooting and following sprouting percentages. In April trial, most cuttings' growths were enough for out-planting in October.

**Key words:** root cutting propagation, medicinal plant, *Uncaria rhynchophylla* Blume

#### はじめに

カギカズラ *Uncaria rhynchophylla* Miquel（アカネ科 Rubiaceae）の根ざしについては、既に「中薬大辞典」（江蘇新医学院編 1977）に記載があり、繁殖法の最初に挙げられている。また、国内では川添ら（1988）の長崎県産の自生個体と実生個体の根ざしを行った報告がある。

筆者はさし木（枝ざし）を試みる中で、1）さし木の適期でない場合、2）根を採取可能な場合には根ざしは有効な方法と考え、試験を行ったので報告する。

なお、本試験は農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「薬用系機能性樹木の生産効率化手法の開発」（平成27–28年度）で実施したものである。

#### 材料と方法

##### 自生個体から材料の採取

材料は鹿児島県始良市蒲生町白男の鹿児島県森林技術総合センター試験林（標高250m）内に自生する個体（U13）で、スギ人工林のギャップから生育し、スギに絡んでその林冠高く繁茂しているものである（地際直径9.2cm、高さ22mのスギの梢端に到達）。この個体からクワで根を掘って採取し、同町内の鹿児島県森林技術総合センターに持ち帰った。なお、この個体の枝ざしの発根率は7月ざしで52%であった（新原2018）。

##### さし穂の調整

帰着後、さし穂（根）を調整した。試験(1)では直径6–10mmの細いものを選び、長さ25cmに剪定バサミで切り揃えた。試験(2)では、特に選別せずに掘り取った根をそのまま使用した（図1）。太いものは剪定ノコで長さ30cmに切り揃えた。直径は6–55mmと大きくバラツキがあった。いずれの場合も細根があれば全て除去した。

##### さし床と管理

さし床は試験(1)ではプラスチック育苗箱（内寸32×24×7cm）、試験(2)ではプラスチック製プランター（内寸

42×27×21cm）を容器として使用し、ピートモス・パーライト混合土（カナダ産ピートモス：中粒パーライト＝50：50（V/V））を満たして、十分に灌水したものとした。さし付け後は半日陰の軒下に置き、表面が乾ききらない程度に水道水で灌水した。

##### 試験(1) 若い根の発根と頭出しの効果（8月ざし）

表皮が黄褐色の若い根を使用し、さし穂（根）の頭出し（約3cm長さ）を行った区と全て埋め込んだ区を設定して試験した。根の採取及びさし付けは2015年8月24日に行い、頭出しをした穂（根）にはトップジンMペースト（日本曹達（株）製）を切口に塗布して保護した。2016年5月13日に掘りとり、発根・発芽状況を調べた。

##### 試験(2) 太根の発根（4月ざし）

自生地で掘り掘りをする際、通例は比較的太い根から掘ることになる。そこで、太い根の発根を試験した。根の採取及びさし付けは2016年4月26日に行い、さし穂（根）は全て頭出し（約3–5cm長さ）を行い、切口にはトップジンMペーストを塗布して保護した。2016年10月14日に掘りとり、発根・発芽状況を調べた。

#### 結果と考察

##### 試験(1) 若い根の発根と頭出しの効果（8月ざし）

結果を表1に示す。発根・発芽共に良好な結果を得られた。しかし、埋め込んだものはさし穂1本あたりのシュートの発生数が有意に少なく（Wilcoxonの順位和検定、 $P < 0.05$ ）、発生した不定枝は全て白いもやし状であった。従って、頭出しをした方がより短期間に苗が得られることが推察できた。

##### 試験(2) 太根の発根（4月ざし）

結果を表2に示す。太い根でも発根率に遜色なく、シュートも力強い伸びが見られた（図2–4）。太い根も有効に活用すべきである。また、8月ざしより生育期間が長く、時期を選べれば春ざしの方がより有効と考えられる。

表 1. 若い根の発根と頭出しの効果 (8月ざし)

処理区分	供試本数	発根本数	発根率(%)	シュートの発生した本数	シュートの発生率(%)	発生したシュートの総数	1本あたりのシュート数	最長シュートの長さ(平均, cm)
頭出し	15	15	100	13	87	35	2.7	4.0 <sup>z</sup>
埋め込み	12	12	100	10	83	17	1.7	1.5 <sup>y</sup>

<sup>z</sup>1-4枚の葉を展開中; <sup>y</sup>全て用土中にあり, 白色を呈する.

表 2. 太根の発根 (4月ざし)

根の中央直径 (mm)	供試本数	発根本数	発根率(%)	シュートの発生した本数	シュートの発生率(%)	1本あたりのシュート数	最長シュートの長さ(平均, cm)
6-15	28	22	79	15	54	2.0	18.9
16-21	6	6	100	6	100	2.5	21.8
32-55	6	6	100	5	83	2.2	37.5
全	40	34	85	26	65	2.2	23.2



図 1. 試験(2) 自生個体から採取した根. 2016年4月26日.



図 2. 試験(2) さし床での生育状況. 2016年10月14日.



図 3. 試験(2) 得られた苗. 直径 9mm のさし穂(根)からシュート 7 節 20cm・根 61cm が伸長中. 2016年10月14日.



図 4. 試験(2) 得られた苗. 直径 55mm のさし穂(根)からシュート 7 節 52cm・根 106cm が伸長中. 2016年10月14日.

### おわりに

自生地で観察すると親株の周囲に根萌芽から再生した幼個体がしばしば見られる。場所によっては親株から 10m くらい離れたところで大株となっており、別個体かどうか判別に苦慮することもある。今回の試験からも根ざしは有効な増殖方法であることが確認できた。(やや労務が増すが) 数十株程度の育苗目的であれば、栽培圃場においても確度の高い方法になると思われる。

### 謝 辞

研究総括の森林総合研究所森林バイオ研究センター 谷口亨森林バイオ研究室長には御指導・御助言をいただいた。記して感謝いたします。

### 引用文献

川添禎浩・小林茂樹・水上 元・大橋 裕 (1988) カギカズラの栽培と育種 (第 1 報) 繁殖法について. 生薬学雑誌 42: 197-203.

江蘇新医学院(編) (1977) 釣藤. 1668-1670. 中薬大辞典 下冊, 上海人民出版社, 上海.

新原修一 (2018) 薬用植物カギカズラのさし木繁殖. 鹿児島県森林技術総合センター研究報告 19: 14-20.